

## 1 勇者アロンゾーと麗<sup>うるわ</sup>しのイモジン

勇敢な兵士と 美しい乙女が  
緑の芝生にすわって話していた  
二人は幸せそうに見つめあった  
騎士の名は 勇者アロンゾー  
乙女の名は麗<sup>うるわ</sup>しのイモジン 5

若者は言った 「ああ 明日<sup>あした</sup>になれば  
わたしは 遠い国へ戦いにゆく  
留守を悲しむそなたの涙もやがては乾<sup>かわ</sup>き  
ほかの男が言い寄れば そなたはきっと  
金持<sup>おとこ</sup>の求婚者に心を許してしまうだろう」 10

「ああ お疑いはやめてください！」 麗しのイモジンは言った  
「わたしの恋情<sup>こころ</sup>を踏みにじるお言葉です  
たとえ あなたがこの世にあらうとなかろうと  
マリア様に誓って あなたのほかに  
イモジンの夫となるひとはありません 15

「そして もし 勇者アロンゾーを忘れて  
イモジンの心が ほかの男性<sup>ひと</sup>を選んだら  
わたしの虚言<sup>うそ</sup>と高慢<sup>うぬぼれ</sup>を罰するために  
あなたの亡霊<sup>とが</sup>が 婚礼の席でわたしの傍らにすわって  
裏切りを咎め わたしをあなたの花嫁だと言い放ち 20  
お墓へ連れ去ることを 神様も許されましょう」

勇敢な兵士は パレスチナへ旅立ち  
兵士の恋人は 胸かきむしり悲しんだ  
しかし 十二カ月と経たないうちに 見よ  
金銀宝石をちりばめた一人の男爵が 25  
麗しのイモジンの館<sup>やかた</sup>にやってきた

男爵の宝物 贈り物 広大な領地のために  
やがて彼女は 兵士との誓いを裏切った

男爵は 彼女の目を<sup>くら</sup>眩ませ 心を<sup>まど</sup>惑わし  
浮気で愚かな女の愛を奪って 30  
妻に<sup>めと</sup>娶り 城に連れ帰った

そして今 二人の結婚は神父様に祝福され  
祝宴が はや始まっていた  
テーブルはご馳走の重みに<sup>きし</sup>軋み  
笑いとさんざめきが いまだ<sup>や</sup>了まぬそのたけなわに 35  
お城の鐘が 「九ツ半」を告げた

そのとき初めて 麗しのイモジンは  
傍らの見知らぬ男に気づいて はっとした  
じっと黙った男の様子は 身の毛もよだっ恐ろしさ  
口を閉じ 身動きせず 眉根<sup>まゆね</sup>ひとつ動かさず 40  
ただじっと 花嫁を見つめていた

顔は<sup>かなめん</sup>鉄面に隠れ 背丈は巨人の高さ  
<sup>よろい</sup>鎧は みるも恐れな黒鎧  
奇怪な姿に 笑いとさんざめきは止んだ  
犬も その姿を見ると怖じ気づいて後<sup>お</sup>退りし<sup>あとしぎ</sup> 45  
部屋<sup>たいまつ</sup>の松明は 蒼白く燃えた

男の出現に 客はみな肝<sup>つぶ</sup>を潰し  
言葉もなく 恐怖に包まれてすわっていた  
ついに花嫁が 震えながら口を開いた 「どうぞ  
騎士様<sup>かぶと</sup> 兜をお取りになって 50  
わたし達の祝宴にお加わりくださいませ」

彼女は黙った 見知らぬ男はうなずき  
ゆっくりと 鉄面を持ちあげた  
ああ その瞬間<sup>とき</sup> イモジンの目に映ったものは！  
<sup>されこうべ</sup>髑髏がそこに露<sup>あらわ</sup>れたときの驚愕<sup>きょうがくろうばい</sup>狼狽は 55  
正にこの世のものではなかった

居合わせたものはみな 恐怖の叫び声をあげ  
吐き気をもよおして 目を<sup>そ</sup>逸らした  
<sup>うじむし</sup>蛆虫が うごめき出では這いずりまわり  
両の眼とこめかみを<sup>な</sup>舐めずりまわしていた 60

奇怪な男は イモジンにむかって言った

「さあ 見るのだ 裏切り者め とくと見よ

勇者アロンゾーを覚えていよう！

そなたの虚言うそと高慢うぬぼれを罰するために

わたしの亡霊が 婚礼の席でそなたの傍らにすわって

65

裏切りを咎め そなたをわが花嫁だと言い放ち

墓場へ連れ去ることを 神様は許されたのだ！」

言い終わるや 恐怖の悲鳴をあげる花嫁を

両の腕かいなにかき抱きいだ

獲物もろとも 大きく開いた大地あに吸い込まれていった

70

二度とふたたび 麗しのイモジンの姿は見えず

連れ去った奇怪な男も 見つからなかった

男爵は間もなく亡くなり それ以後だれも

城を引き継ぐものはない

記録によると 天の理法さだめに従って

75

その城で イモジンは犯した罪の罰を受け

哀れな運命を 嘆き悲しんでいるという

年に四度 子の刻ねに

人々が深い眠りについたとき

イモジンの亡霊が 白い花嫁衣装で

80

髑髏されこうべの騎士と広間に現れ

ぐるぐる円舞まわされて悲鳴をあげる

墓から奪りたての髑髏どくろの杯あおを呷りながら

蒼白い亡霊達が 二人を囲んで踊っている

その飲みものは人間の血ひと そして彼らは

85

恐ろしい詞ことばを喚わめいている 「勇者アロンゾと

彼の妻 裏切り者のイモジンに乾杯！」

(山中光義訳)